

＜議会報告会記録（総務常任委員会関係）＞

1 開催日時

平成24年11月19日（月）18時30分開会（20時23分閉会）

2 開催場所

函館市民会館 大会議室

3 出席委員（◎委員長、○副委員長）

◎工藤 恵美	○紺谷 克孝	出村 勝彦	斎藤 明男	金澤 浩幸
阿部 善一	板倉 一幸	日角 邦夫	茂木 修	

4 参加者数

15名

5 会議次第 司会：紺谷 克孝副委員長

- (1) 開会（紺谷 克孝副委員長）
- (2) 開会あいさつ（工藤 恵美委員長）
- (3) 委員会の概要説明（工藤 恵美委員長）※内容別紙参照
- (4) 委員自己紹介（各委員）
- (5) 委員会活動報告（工藤 恵美委員長）※内容別紙参照
 - ア 防災対策について
 - イ 行財政改革プランについて
 - ウ 公共交通総合施策について
 - エ 北海道新幹線にかかる諸課題について
 - オ 函館市立小・中学校再編計画について
 - カ 函館アリーナの整備について
- (6) 質疑応答 ※内容別紙参照
- (7) 閉会あいさつ（紺谷 克孝副委員長）
- (8) 閉会（紺谷 克孝副委員長）

＜委員会の概要説明＞

○委員長（工藤 恵美）

- ・ それでは市議会の概要、そして委員会の概要をかいづまんでお伝えする。

一つ目に市議会議員は議会を構成して、さまざまな市民の声を代表して議論をし、市政に反映させるため条例の制定や改廃、予算の決定、決算の認定、財産の取得や処分、大きな請負契約などを審査し、市政に関する基本的な事項を決めている。このことを議決という。このため市議会は議決機関と呼ばれている。市長は市政を進める。このため市長部局は執行機関と呼ばれている。市議会と市長は互いに独立した立場から市民福祉の向上を目指し、市政運営に努めている。

二つ目に会派だが、市政についての考え方や意見などを同じくする議員が集まってつくるグループである。現在、函館市議会では市政クラブ、民主・市民ネット、公明党、市民クラブ、日本共産党の五つの会派がある。

三つ目に市の仕事は非常に幅広く複雑だ。そのため常任委員会は総務常任委員会、経済建設常任委員会、民生常任委員会の三つで専門的、能率的に審査、調査を行っている。

そのほか議会の役割や責務については、函館市自治基本条例にも記載されているので、御覧いただきたいと思う。

＜委員会の活動報告＞

○委員長（工藤 恵美）

- ・ 昨年の5月から委員会が発足され、継続調査として調査、研究してきたことについて報告をする。

ア 防災対策について

- ・ 昨年3月11日の東日本大震災の教訓から地域防災計画の見直しが重要となり、市単独、また国や北海道の動きに合わせた見直しの調査が始まった。

自主防災組織づくりと強化の取り組みの整備が非常に高く、先進的な総合防災情報システムを導入し、防災マニュアルづくりや市民への啓蒙活動に注力している他都市への視察を行い、調査を深めてきた。

また災害活動の検証、津波発生時の避難経路の検証、一時避難所を含め適正な避難場所であるかどうかなどを調査を行った。防災訓練については幼児や高齢者、そして障害のある方々の対応に配慮した訓練の見直しについて、効果的な防災訓練のため町会との協力体制を強化すべきこと、冬や夜に災害が起きた場合のシミュレーションを行うべきことなどの議論が多く交わされている。

北海道が公表した津波浸水予測について、どのように函館市の津波避難計画を策定させていくのか、これからも調査を深めて続けていきたいと思う。

イ 行財政改革プランについて

- ・ このたび行財政改革プランの原案が発表され、今月11月30日までパブリックコメント手続きが行われている。

受益者負担に係るものについては一層の内部努力をした上で市民に新たな負担をお願いするべきではないか、市民協働の視点をどのように反映させていくのかなど、市民の皆様の御意見をお聞きしながら、一つ一つ丁寧に審査していく。

ウ 公共交通総合施策について

- ・ 車社会の進展などによってバスを初めとする公共交通利用者は減少の一途をたどっている。なかなか歯どめがかかるない中で今後も人口減少が進み、さらなる高齢化の進展が予測される。市民の移動手段を確保するという観点から、公共交通の活性化は大変重要な課題であるととらえ、公共交通総合施策についての調査を始めた。

交通結節点の強化や地域内交通の整備、ICカードの導入、循環バスの導入などを行っている先進都市を視察し、調査を深めている。

エ 北海道新幹線にかかる諸課題について

- ・ 北海道新幹線の札幌延伸時にJRが経営分離するという問題について、北海道やJRに対して市とのべき対応について議論が交わされた。

また、北海道新幹線新函館開業時に並行在来線となる江差線五稜郭・木古内間の交通の確保の方策について、第三セクター鉄道の設立や北海道と沿線自治体による「道南地域並行在来線対策協議会」に対して沿線自治体の負担割合や運行ダイヤ、運賃などについても調査をしてきた。

今後は重点調査項目とするために9月定例会において新幹線特別委員会が設置され、この案件は特別委員会に移行された。

オ 函館市立小・中学校再編計画について

- ・ 昨今、児童生徒数の減少により再編は必要となってしまった。しかし統廃合を進める上で、何を判断基準に統廃合を進めていくのかや、再編して新たに学校を新築していくのか、廃校した学校はその後どのように利活用するのか、スクールバスの問題など、いろいろ議論を重ねた。

学校は学びの場であり、地域コミュニティの中核でもある。避難所の役割も果たす。よりよい教育環境を整備するとともに、まちの活性化、まちづくりの観点も勘案しながら進めていくべきだと思っている。長いスパンでの再編計画なので、まちづくりの関係で人口移動も考えられる。そのことも十分注意をしながら、この問題も進めていきたいと思っている。

カ 函館アリーナの整備について

- ・ 御承知の方も多いと思うが、プロポーザルコンペによって決定をされた。この基本設計のあり方についてを調査を行った。

避難施設であることからしても、津波浸水予想など防災対策に配慮するべきこと、地下建設は中止

するべきこと、駐車場の確保や交通渋滞の緩和などに配慮すること、維持管理費の軽減策を講ずることなどを議論してきた。また、今後の管理運営方法など、スポーツ施設としてアリーナを整備した他の都市の調査も行ってきた。

メインアリーナとサブアリーナの二つに分かれている非常にユニークな形をしたアリーナだ。未来につながるようなアリーナだが、実施計画を今、策定している。

- 以上で昨年から引き続きこの委員会が行った継続調査について報告をした。

もちろん委員会はこの継続調査だけではなく、その都度、市から提出されます議案について、真摯に審査をし、調査を行っていることもあわせて申し上げる。

＜質疑応答＞

○市民A

- 質問する前に二つほどお伺いしたい。

この報告会の位置づけにも関係するが、一つはせっかくこのような報告会をするのであれば新聞に出れば広く周知となるかもしれないが、例えば町会に回覧を回すとか、あるいはポスターを張るとか、せっかくこういうことをやるのだから。私も席に限りがあるようなことが書いてあったんで急いで来たら、えらい少なくて。市民として今、不満があるのは、従前は市長と市民との懇談会があったが、現在の市長になってからはそういうものが持たれなくなり、市長と町会長との意見交換の場がようやく今週の22日に持たれたという状況がある。せっかくこういう立派なことをやるので、広く周知をすればもっともっと集まるのではないか。

- 1点目は、14日に既に1回目の経済建設常任委員会の議会報告会が終わっているので、そのときの人数がどうだったかを参考に教えてほしい。
- 2点目は、開かれた議会を目指すとあり、市民の意見をお伺いすることを目的とするとなっているが、伺ったものをどう生かしていくのかをお伺いしたい。ただ聞きっ放しであれば、オーバーに言えば国会なんかは議員立法で展開する方法もあるが、ただ参考とするだけで終わるのか、今後の市政にどのように反映していくのか、そこら辺の位置づけをお聞きしてからいろいろ質問をしたいと思っている。

○市民B

- 私も同感だ。この件について話をしようと思っており、今、発言があったので、重複しないように質問する。

私もこの議会報告会というのは初め、私たちと意見交換をするものとばかり思っていたが議会報告だ。なぜ議会報告なのか。結局、議員と市民の対話とか意見交換会とか、そういう名称のほうが市民に馴染んでくる。議会活動なら議会だよりに出てるから、そういうものだと思ってる人が大勢だと思う。どうせやるんだったら市民に1回聞けばいい。初めてやるんだからわからないんだろう。市民にこういうのをやりたいんだけど、どうですかって、ボールを投げてよこせばいいんだ。そうすればす

んなり行くと思う。ただ漠然と初めてだ、初めてだって言うけれども、俺たちも全然こういうものだと思ってないから集まりがないだろう、全然。

この問題だって3年半もかかっている。なぜこんなにかかったのか、それを聞きたい。それが一つだ。

もう一つは視察に行ったと言っている、視察に。私は第1回の議会運営委員会に行ったんだ。そうしたら1人の議員はペーパーではわからないので視察に行かなければだめだと、こうなった。そしたら女性議員3人は行く必要ないと、そしたらもう1人がそうだ、そうだと、最後の1人は函館独自のをやればいいんだと。僕もそうなんだ。そんなの行く必要はない。市民に聞いて行くというのであれば、百歩譲ってもいいが、何も市民に聞かないで独自に行っている。その結果がこういうやり方なのか。それが腑に落ちない。自分のお金で行ったのであればいいが、市民の納めた税金で行ってるんだ。まさに血税だと思う。今、お金がない、ないと言っていて、みんなも敬老祝い金だってカット、交通料金だって6,000円で打ち切りだ。職員だって10%給料を下げた。そういう中で何で四日市市に行つたのか、その点を答えてもらいたい。

○副委員長（紺谷 克孝）

- ・ 今、お二人の方から質問があった。
- ・ 私のほうから少し答えるけれども、初めての議会報告会ということで今回あった。おっしゃるとおりいろんなところで広報、周知することは必要だったとは思うが、どういう報告会にするかということは議会運営委員会の中で大分議論してきた経過がある。議会運営委員会の中でどういう持ち方がいいのかを結構な時間、議論しながら、まず常任委員会の報告からしてはどうかということで、試行的にやっている状況だ。だからきょう、こういう開催の仕方がいいのではないかとか、あるいはもっと周知してたくさんの市民に来てもらったほうがよいのではないかという意見が寄せられれば、またそれを持ち寄って。これは2番目の質問にもかかわるけれども、最初は常任委員会ごとではなく全体でやつたらどうだという意見もあった。いろいろ試行錯誤して、まずこういう形で市民の意見を直接聞く機会を設けたほうがいいのではないかということで始めた。だからこの次には今言われた意見を議運の中で議論して、市民の声に沿った形で方法を変えて報告会を開催することもあり得る、そういう形で意見を生かしていく。
- ・ それから市長のタウンミーティングは個人ではなくて、さまざまな組織と懇談をする方式に変わった。そのことについては会派の皆さん方もそれぞれ意見はあると思う。タウンミーティングのほうがいいんじゃないかな、前の移動市長室のほうがよかったのではないか、あるいは町会の役員との懇談。それはそれぞれ議員一人一人、あるいは会派の考え方があり、もっといい方法があるということであれば議会の中でも、行政側の行っていることだから、取り上げて質問に生かしていくことも十分にあり得ると思う。
- ・ それから議運のほうでいろいろやって、長過ぎるんじゃないかなというお話を確かにあると思う。ただ議会の側としても、どういう形で報告会をやればいいかということを相当議論して、例えば北海道内で先進的に議会報告会をやっているのはどこなのかということも聞いたりし、調査もしたりして、函館市にふさわしいやり方がどういうやり方か検討して今回初めて試みた。もちろん今回のやり方が

100%よくてそれで万全だということではなくて、いろんな形で今後も研究し、よりよい報告会にしていくという努力は議会運営委員会の中でも、あるいは各会派の中でも議論して、そういう方向を目指したいと思っている。

○市民B

- ・ 私が言っているのは、なぜ3年もかからなければならないのか。これは一朝一夕でできる話だ。2年間何もやってない。それで2年間で委員がかわってからやりだしたんだ。前の2年間では1回目だけだ、やったの。行く、行かないで。そこを私は言っている。引き継ぎはしているんだろう。今までこの件について何回開催したのか、3年間のうちに。

○委員長（工藤 恵美）

- ・ 今の発言に関しては、この議会報告会を開催するに当たっては議運で調整しているので。総務常任委員会のこのメンバーが必ずしも議運のメンバーではなかったものだから。
- ・ 3年かかったというのは、選挙があったので改選されて委員のメンバーも変わったので。それと34名から30名に減らしていろいろな役割分担が変わってきたってこともあり、もう一度再度練り直して、それで時間がかかったということもあった。
- ・ それと議会報告会がいいのか、大きくくくって議会報告会だけも意見交換会であるべきなのか。それとも私たちが調査研究していることを皆さんにわかってもらえるような報告会にして、その報告の内容の意見交換をしていきたいものだと思っている。また、普段の生活に密着したことの市議会議員に対しての質問であれば、個々の議員が自分なりの議会報告会だったり会派ごとの議会報告会を開催して催しているのないのかなど。そういう形がいいのか、これはこれからも試行錯誤しながら決めていきたいと思っているところだ。私の意見だけれども。

○市民B

- ・ 何もやってないんだよ、2年間は。議運はやってないんだから何回やったのかを聞きたいんだ。それを知ったら今度言ってちょうだい。
- ・ それと移動市長室ががなくなり、団体でないとだめになった。そうすると個人の意見が全然反映されない。個人個人の意見がすごく重要なんだ。町会に入ってたって、上だけでやっていて下のほうは何もわからない人がほとんどだ。町会長と3役だけでやってる。だから日頃、個人の意見も聞くべきで、僕は移動市長室をやってもらいたいんだ。孤軍奮闘している意見が全然いっていない。何でなくなったかを聞いたら参加者が少ないからということなんだ。ぜひ復活するように言ってほしい。

○金澤 浩幸委員

- ・ 今回の広報については議会だよりとホームページ、議会として載せたのはこの二つだ。新聞についてはこういう行事があるという記事で記載していただいた。というのは議会費もかなり削られていて、一般質問の質問内容も昨年までは全国5紙に掲載していたのを地域の新聞2社に削っているし、今回の議会報告会を新聞に広報するとお金がかかる話になるので、お金がかかるないように議会だよりとホームページだけの広報にさせていただいたのが実際だ。
- ・ 経済建設に何人出席かというのは議会事務局に聞けばわかると思う。

○副委員長（紺谷 克孝）

- ・ 経済建設の議会報告会は30名くらいということだ。最初だったので少なかったんじゃないかと思う。

○市民C

- ・ 個別の件で聞きたいんだけど、防災対策っていうのは総務常任委員会だけで対策をやっているのか。誰が入ってやっているのか。つまり市民はどのくらい入っているのかということを聞きたい。委員会として市民をどれだけ募集したのか、あるいはその地域、地域に議員が行って、地域の人とどのくらい面接して防災について広めてみたのか。それを聞きたい。

○副委員長（紺谷 克孝）

- ・ 今、質問があったのは総務常任委員会ということではなくて、防災会議ということで、函館市全体で防災計画を立ててどう実施していくかという防災会議が、市民と直接接してお話を聞きながら計画をつくっているのかという話だと思うが。

○市民C

- ・ そういう話もあるが、総務常任委員会がどのくらいタッチしているのかということだ。要するに市民と行政と議会がどのくらいタッチしているのかという話だ。

○阿部 善一委員

- ・ 防災会議というのは市長をトップに各関係官庁の代表者、それから市民公募の方、総勢30人くらいいると思うけれども、そこで防災会議という会議があって、そこで原案をつくるわけだ。で、これをつくったら総務常任委員会で議論している。例えば普段だったら民生にかかわるもの、あるいは経済建設にかかわるものであっても、これはすべて総務常任委員会の中で議論をしている。

また、総務常任委員会がそういう議論をする当たって、直接、市民の方から公の場でいろんなものを聞いたということは1回もない。ただ個別に関心を持っている委員の方はいろんな、医療関係者だとか電力会社、あるいは水道事業者の方にそれぞれ個人で調査をし、防災の計画が示されたものについては、いろいろ意見を述べたり、付加するものは付加をしたり、そういう議論を今、総務常任委員会の中ではしている。

○市民C

- ・ 私が希望するのは、例えば戸井地区だとか榎法華地区だとか恵山だとかそういうところの住民と、どのように直接会って交渉されているのかなと。つまりどの程度の討論をしているのかを聞きたかった。それは恐らくなされてない。私はそういうところを言いたいんだ。
- ・ この会議でも報告会ということだから、総務常任委員会だけの話になっている。私ども市民が求めるのは、議員30人の方の全員が出席していただき、市民と対等で話をする機会を年に3回くらいはほしいと思う。今、ほかの方々が言ったその思いと同じなんだ。例えば2番目の行財政改革プランについてだってそうだと思う。だから議会としては30名の議員がじかに出てきて派手に宣伝をして集めることだ、市民を。市民の意見をじかに聞いて、それを行政の執行部に上げるという協力なスタイルを取らないと、議員さんたちも弱いだろう。行政からああだこうだと言われてきたのを承認するしかないんじゃないのか。だけど執行部が出してきた案について最終決定者は議会なんだから、議員さんたちなんだから、最終決定者としてこういうことを決定したということを市民に知らせなきやならない。行政からではなくて議員さんから聞きたいと思っている。

そういうことを実行してほしいことになると議運だ何だっていう話になっちゃう。議運というところは私の感想ではどうもおかしい。各会派の意見を持ち寄ってくるということはわかる。わかるけどどうも消極的だ。陳情書を出しても会議の意にそぐわないとか、ふさわしくないとかっていう答えしか返ってきてない。そのくらいの答えならば、答えになつてない。

○副委員長（紺谷 克孝）

- ・ 質問項目を一つ一つ区切つていかないと。並べると答えられない。あまり発展させて1度にしゃべっちゃうと項目が整理されない。

○市民C

- ・ じゃあ、絞る。私たちは総務と言っているけど、私たちが見るのは皆30名の議員さんがいらっしゃる議会なんだ。各個別の委員会ではない。それで議運について言うけど、議運はどうして消極的なのか。また陳情書の答えも答えになつてないということも私は不満で言いたい。どうなのか。

○副委員長（紺谷 克孝）

- ・ お話もわかるんだが、最初に私たちが議会報告会を開催して皆さんのお見等を直接聞くというふうに踏み切ったわけである。最初から30人の議員がいて市政すべてにわたって討論するというのは非常に理想かもしれない。しかし函館市の議会史上初めて導入するということで、議運の中でまず三つに分かれている市政全体の中で、細かくてもいいからよく議論してそこから出発しようという第1段階となっている。だから最終的なあるべき姿をすぐやるといつてもなかなか難しい。そういうことできょうは総務にかかわるものを中心にやるということで皆さんにお願いしているわけである。

きょう参加した中でもこの総務にかかわる問題について、もう少しいろいろ質問したいとか意見を述べたいという人もいるので、正式の議運の報告会でないということもあるので、その辺は斟酌していただきたいと思う。

○市民B

- ・ 一つは早めに終わった後に、その他でそういう意見をやる。みんな本当に30人来てやると思ってるんだ。それなのに委員会だ。だから俺たちは3回足を運ばないといけない。あんた方は1回でいい。

○委員長（工藤 恵美）

- ・ 普段の個々の御意見だとかは、別に報告会や懇談会でなくても最寄りの議員さんにお尋ねになつたり、注文つけたりとかいろんな意見交換だとかはできるはずである。こういう場だからこそ、みんなで共通した話題で、共通した意見を共有するというも大事なことではないかなと思う。

例えば一つの何か問題で、先に言ったとおり函館市議会は五つの会派に分かれている。だからみんなそれぞれ意見が違うと思う。同じ場合もあるけれども防災計画にしても、行財政改革プランにしてもそれぞれの意見があると思うので、何か一つ質問していただいて、それぞれの委員がそれぞれ自分の考え方だとか取り組み状況を話すことができる。それが円滑に行く意見交換なのかなって思うが、いかがだろうか。

○市民B

- ・ 話はわかるんだけどもどうも腑に落ちない、やり方について。

○板倉 一幸委員

- ・ スピーディーであるのかないのかというのはいろいろ不満はあるのかもしれないが、これは議会運営委員会でまずこうやって議会報告会を開催してみようと決めて初めてやった。そのやり方に対するいろいろな課題も出てくると思う。それはこうやって3回やるわけだから、それぞれで出された問題を検証して、こういう意見があったけれどもこれはどうしたらいいだろうかという議論があるはずだから、今回はこういう形でやるという前提でお話いただければと思う。

○市民B

- ・ 話、わかるんだけども、どうして委員会で三つに分けたのか。そこが疑問なんだ。

○阿部 善一委員

- ・ そういうふうに決めちゃったんだ。だからそれは意見として聞いておくので、きょうは。

○市民B

- ・ なぜ初めに函館市民に聞かなかつたのか、そこを言つてゐるんだ。そして視察を行つてゐるだろう。そこを言つてゐる。

市民を置き去りにして何も意見も聞かないで。初めてやるんだったら市民に聞けばいい。そうすればこういうことにならないと思う。したって、報告会なんて誰も望んでないんだ、市民なんて。やっぱり日常生活が困るんだ。経済力が一番悪いだろう、今。疲弊してゐるだろう。その中でも一番大切なのは日常生活なんだ。年金者は五、六万円で生活してゐるんだ。あんたたちは51万円もらつてゐるわけだろう。それだって市民があんたたちにバッチつけてやつてんだ。だからきちつとやってもらいたいってことなんだ。だから初めからやるんだったら市民に聞けばいいんだ。そうすれば視察に行くこともない。そう思はないか。

○板倉 一幸委員

- ・ 気持ちはわかつたから。

○市民B

- ・ わかつた、もうこれ以上言わない。だからちゃんとやるんなら市民にお伺いたてるとかしなきやだめさ。絶対そうだよ。だからこういう問題が出てくるんだ。誰が考えたっておかしいんだもの。

○委員長（工藤 恵美）

- ・ 報告会のあり方ということで貴重な御意見を承つたと受けとめる。今後もあり方ということでこれからも議論されていくことだと思う。今回はこういう形で報告会をさせていただくということでルールを決めたので、前に進みたいと思う。
- ・ せっかく私たち一年半もかけていろんな調査研究しているわけだから、そのことをどんどん質問していただければ、幾らでも議員は答える。総務常任委員会のこと以外は、議運のことを聞かれても私たちは・・・。

○市民B

- ・ 答えるって言つたって、1人いないうだろ。

○委員長（工藤 恵美）

- ・ 1人はいない。1人いなくとも、今この場で答えられることは・・・。

○市民B

- ・ 本人に聞きたいんだ、今回欠席した人に。来ないんだろう。

○委員長（工藤 恵美）

- ・ そういう形で、議題を進めていきたいと思う。きょうはいろんな方々がいるのでいろんな意見を聞いて、私たちも皆さんのお意見を一つ一つ丁寧に聞きながら。ただ執行機関ではないので、これやるとは言えないけれども、そういう考え方を自分たちの調査研究にしていくということは重要なことだと思っているので、前に進めたいと思う。よろしくお願ひする。

○副委員長（紺谷 克孝）

- ・ いろんな意見の方もたくさんいるので、それらの意見を十分に聞いて、議会活動に生かしていくということは行っていきたいと思う。
- ・ それでは、そちらの方、どうぞ御意見なりをよろしくお願ひする。

○市民D

- ・ 別に興味があったから来たわけじゃなくて、教育大の大学生なんだけれどもまちづくりに関する勉強をし始めたばかりで、ゼミの関係で見てきたほうがいいと言われたので来た。
全く知識がない中で稚拙な質問になるかもしれないけど、議運って何なのか、それだけ最初に教えていただきたい。

○金澤 浩幸委員

- ・ 議員は30人いるので全員で会議を開くのが理想ではあると思う。ただ函館市は会派制をとっていて、市政クラブが11人いる。民主・市民ネットさんが8人、市民クラブさんが4人、公明党さんが4人、日本共産党さんが3人いる。で、それらの会派から代表の方に出席していただいて、そこで議会運営に関することとかを協議していく場である。多分、全体の会議を毎回行うのが理想なのかもしれないが、それを行うと効率も悪くなるしなかなか進んでいかないので、会派制をとって、その会派から代表が出ていただいて、議会運営に関する進めていく場ということである。

○阿部 善一委員

- ・ ちょっと補足させていただく。議運というのは、地方自治法の中にあって、正式には議会運営委員会という名称だ。これは議会運営委員会を設置することができるという規定があって、函館市はそれが必要だと。なぜかというと議会というのは議長が最高責任者だけれども、議長の議事整理権であるとか総括権であるとか、それを暴走させないために、お互いにきちんと話し合いを設けてそういう正式な機関を設けてルールを決めようと。これに基づいて設けられているのが議会運営委員会、略して議運ということなので、そういう御理解をしていただければよろしいかと思う。

○副委員長（紺谷 克孝）

- ・ よろしいだろうか。今答えたのは前議長なので、非常にそういうことに詳しい。
- ・ それではその次の質問をお願いする。

○市民D

- ・ ありがとうございます。次に防災対策について、他都市との比較から津波対策について視察を通して考えられたという理解を僕はしたんだけど、その中でさまざまな意見があったと思うけれども、具体的な対策みたいなものがあまり出ていなかつたような感じがするので、その辺について質問し

たい。

その理由としては、3.11があったときに朝市の復興も少し時間がかかったということなので、総務常任委員会は観光とかにあまり携わってないかもしれないんでちょっとこれはそぐわないかなと思ったんだけど、朝市ってやっぱり函館観光のひとつの目玉だと僕は思っていて、その中でもう1回ああいう災害が起きた時の対策は、朝市がいち早く復興することが函館の観光業をこれからを通して、守るじゃないけどもそれにつながるかと思うんで、津波対策についてどのような意見が議員さんから出たのか、少し具体的な例を教えていただけたらと思う。

○副委員長（紺谷 克孝）

- ・ 防災対策である。この間いろいろ調査してきた内容だと思うが、どなたか答えたいと思う方がいたら。
- ・ 多岐にわたる質問で私から少し説明させていただく。防災対策は総務常任委員会の調査事件としてずっと審議してきているが、最近示された北海道の津波が今までと違った大きな被害を想定している。函館市全体でも津波が十数メートルの地点も東部4支所管内にあるということで、それをシミュレーションすると市内のかなりの部分が津波に浸水するということもわかつてき。それに対する対策を今、函館市がまとめている。今まで想定できなかつた大きな被害が予測されるということで、もっと緻密な規模の大きい対策を立てなきやだめだと。それが今、総務常任委員会に提案されて審議の入り口まで来ている。

そういう大きな災害が来ると朝市は、3.11の津波でも相当浸水して死者も出るような状況だから、5メートル、10メートルの津波が来れば大きな被害が出るのは確実だ。だからそういう津波が、天災があったときにどう対応するのかを早急に今、函館市としても決めなきやだめだと。私どももそうした計画が出されたときに審議する状況になっている。

これから問題として、今の防災計画の柱になる計画だから、避難するビルをもっともっとふやして、そして浸水したところはまずビルに逃げるという一時避難対策を詰めていかなきやだめだということで、函館市もいろいろ調査してその計画をつくるために頑張っている。それから地域の町会も防災のための委員会を設けて、そこと連携して地域ごとに、津波などが起つたときにはどういう対応をするかということも今後進めていかなきやだめだと、市の理事者たちも考えているし、私たちも出されてきた案について十分審議していきたいと思っている。

○斎藤 明男委員

- ・ 私のほうから現在の状況を説明したいと思う。3.11の大震災以来、函館市は24年5月に地域防災計画の見直しをしている。具体的に朝市をどうするかという問題よりも、津波の被害が相当大きいということで、いかに人命を守るかということに力点をおいてやつていて、24年7月に暫定値が北海道から出されている。

総務常任委員会でも東部地域、特に銭亀から南茅部まで避難路の設置状況などを調査して、住民ともいろんな話をしている。その後、遡上高っていうのが出て、一番多いところでは14メーターくらいの遡上があるというデータが示され、旧市内も栄町で大体9メーター、入舟で5メーター60、大手町で6.2と。となるといかに避難するかっていうことが大事になると思う。恐らく市役所も地下に発電

設備がありその辺が壊滅状態になるので、東消防署のほうに対策本部を設置するというような動きになっていて、24年度中に津波の避難計画を市のほうで定めると。

委員会もその辺の内容もチェックしながら、より安全で安心な計画、要するにいかに住民に避難路を周知するか、その辺にかかると思うし、また、防災訓練などそれに対応した訓練も必要になると思っている。去年、東海、東南海、南海地震の想定される地域を見てきたけど、あの辺は国から予算が来ていて至るところに津波を防止するゲートだとか、高台に避難する、避難の標識なんかが相当完備されている。北海道でも背後地に避難階段なんかも設けているので、そういうのも合わせて利用するとか、いかに高いところに住民を早い時間に避難させるかがこれから計画にとって大事なことになると思っている。

○副委員長（紺谷 克孝）

- ・ 東部4町村については逃げる経路が、階段が壊れてないかとか、どれくらい時間がかかるのかというのは、私たち総務常任委員会で全部をまわって、地域に住んでいる住民の声も聞いて、実際に津波があつたらどうするのかということでチェックしてきて、整備されていないところは整備を急ぐように理事者のほうにも伝えているところである。だから、そういう点で議会としても地域の住民の声を聞きながら理事者に整備させるように努力をしているところである。

○市民D

- ・ ありがとうございます。今質問したのは僕が静岡県出身で、静岡県は3.11の後、水門とかで津波から守ろうという運動が結構あったんだけど、函館市は避難を中心に考えているということなので、僕は函館駅からの景観が本当にきれいで好きなんで、あそこに護岸工事あまり高い壁立ててという津波対策をやるのは嫌だなと思っていたので、少し安心をした。
- ・ あと一つ、これは意見なのか、質問なのかはよくわからないけれども。議会報告会って今回が初めてらしいけれども、資料がこれだけと思ったので、次からはもう少し厚い資料をくれたらいいかなって思った。あと先ほど打ち合わせ不足みたいでない資料を指した形だったので、あれはちょっとやめてほしいかなと。多分貰ったら結構大切にする。僕、教育学部なんで教育のことも書いてあつたら、今回時間の関係あまり話していない部分の資料もあつたら家に帰って見たいと思うので、そういう資料もいただけたらなと思った。
- ・ あと質問の時間を設けてあるので質問用紙みたいのを持っておいて、議会報告会をまとめる紙とか、そういう紙もあつたらほしかったかなと思った。初めてなのでいろいろ大変かとは思うけれども、次にやるときにはそういう準備をしてほしいと思った。

○副委員長（紺谷 克孝）

- ・ 今のお話、非常に貴重なお話だ。私どもも初めてだということで準備不足もあり、資料の手違いもあって大変申しわけなく思っている。次回はもう少し質問しやすく、それから時間帯もどうとのかも含めて、きょうの意見を参考とさせていただいて、よりよい報告会にしていきたいと思う。
- 報告会といつても報告だけで終わらせるということではなくて、きょうのよう市民一人一人の意見を聞く時間もそれなりにつくって、いろいろ皆さんの意見を拝聴しながら議会の中で生かしていくたいと考えているので、貴重な御意見として参考にさせていただきたいと思う。

○市民 E

- ・ 僕、経済建設常任委員会のサン・リフレで行われたやつにも行ったんだけれども、その時の報告会というは、パワーポイントを使って視察しに行ったという富山県の市電についての報告をしてくれて、時間を大きく割いてテーマをきちんと、大体こんな感じというのをまずそちらから示してもらった上で、内容をきちんと教えてもらってから話がスタートした。

きょうだと、6項目がパンパンパンパンといったという感じで、報告会としての意味がないというか、もうちょっと総務常任委員会の側から何個かトピックを決めてもらって、それについて重点的なテーマとして報告してもらうほうが質問もしやすいし、意見も出しやすいのかなと思った。

○板倉 一幸委員

- ・ 私も先日の経済建設常任委員会所管の報告会に参加をしていたけれども、それぞれ委員会ごとにどういうやり方をするかというのは、特に打ち合わせをして、みんな同じようなやり方でやろうと決めたわけではない。経済建設常任委員会では富山県の富山市と高岡市の事例をパワーポイントにしたから確かに理解しやすいと思う。やり方はいろいろ工夫をしていくことが必要だとは思うけれども、ただ経済建設常任委員会でも所管する事項はそのほかにまだまだたくさんあるわけで、例えば交通のこと、水道のこと、あるいはまちづくりのこと、中心市街地のことだとか、農林水産だとか。そういうことがあるので、そういうことも中には聞きたいという方もいらっしゃったのかもわからない。だからどういう形でこの議会報告会の報告事項にするのかっていうのは、今の御意見も少し参考にさせていただきながら、また持ち寄ってみんなで検証してみたいと思う。

○市民 E

- ・ 公共交通総合施策について、お話ではモータライゼーションで公共交通機関を利用する人が減っているということで他都市への視察に行かれたと報告されていたと思うが、これはどこのまちに、前回のサン・リフレの時にあった、富山県の富山市とか高岡市の事例を視察に行かれたということなのか。

○副委員長（紺谷 克孝）

- ・ この視察は栃木県の宇都宮市と長野県の長野市に先日行ってきた。今おっしゃったとおり公共交通は人口減と高齢化によって利用する方が減少してきてる。どこでも大体同じような傾向で、利用が減少すると経費削減ということでさらに本数が少なくなつて、またそうするとお客様が少なくなるという繰り返しのところが非常に多いし、自然に任せるとそうなつてしまうという。

それで先進都市ということで、例えば長野市に行けば路線バスから切り替えて循環バスをやって住民の要望に応じたバスを独自に運転するとか、あるいはデマンド方式ということでタクシーや小型の車を使って、登録して住民が要望すればすぐ自宅付近まで、病院やスーパーに連れて行ってくれて、また帰りもタクシーで自宅まで送ってくれるとそういうきめ細かい住民の要望に応じた交通機関のデマンド方式というのは函館はまだやっていないと思うが、それが宇都宮や長野市ではどんどんやって、経費も安くしかも地域の住民の要望に合つた、高齢化した自家用車の運転できない人たちにも好評だということで、そういう方式をこの函館でも実施することが赤字対策にもなるし、住民の要望にも応えていく公共交通のあり方だということで、私ども総務常任委員会で行ってきた。私も含めて大変勉強になったし、長野では直接、長電バスという民間のバス会社にも行って、苦労して市と提

携してそういう住民の要望にも答えて経営も確立させようという努力している姿も私たちは見てきて、この函館でも函館バスとも今後いろいろ議論する余地が出てきたなと思っていた。

そういう点で公共交通、非常に勉強になったし、総務常任委員会としても今後、視察を行政に生かしていきたいということで考えている。それは経済建設常任委員会の富山市とはまた別にやってきたということで、経済建設は電車を中心にやっていて、私どもはバスと市電とプラスしてタクシーなんかも含めて今調査している。

- ・ 時間も迫っているが、ぜひ意見があるっていう方、さらにあれば。はい、どうぞ。

○市民C

- ・ 今の交通の話なんだけれども、循環バスだとかを回す時にタクシー業界との軋轢はないのか。

○金澤 浩幸委員

- ・ 1カ所、タクシーの業者さんも入っているみたいだ。

○市民C

- ・ 長野か。

○金澤 浩幸委員

- ・ そうだ。長野のバスとは別にタクシー業者さんも1社入って協力体制でやってるみたいだ。

○市民C

- ・ 循環バスをか。そうすると函館市で、将来そういう循環バス的なものをだれか希望したとすると。

○金澤 浩幸委員

- ・ そういう問題は当然出ると思う。タクシー業者さんの売り上げ減少につながる話になってくるから、簡単に循環バスだけでそこに市の補助金を入れてというスタイルを単純にまねはできないと思う。

○市民C

- ・ 難しいところだと思う。
- ・ それから2番目の行財政改革プランについて。これはホームページを見ると今月の30日までに市民から意見を公募するということになっている。その後はどういうスケジュールになっているのか。

○副委員長（紺谷 克孝）

- ・ スケジュールは、パブリックコメントということで市民の声を聞くのは11月末まで。議会でもまだ総務常任委員会で可能な限り時間をとって、今、理事者が出してきている案について、議論を深めていきたいと思っている。

成案にするのは12月、年内に成案にしたいということで、それまでに市民の意見を聞いたり、それから私どもはこれからも議論していく。そして成案にするにはここはうまくないのではないかとかつていうことも十分、提言していきたいと考えている。

○市民C

- ・ 私たち市民から見ると、委員会だけの中でみんな話し合っていくんだ。会派ごとの賛成か否かということで。そうではなくて、もう一步前に出て貰いたいと思う。行財政改革プランについて市民を集めてみて、それで突っ込んだ討議をしてほしい。委員会内だけで終わってしまったんじや、市民に議員さんの働きが見えないんだ。市民から見たら議員さんの働きが見えないと議員は何やってるんだと

いうことになってしまふんで、議員さんはやっぱり議会から外に出て、市民を集めてほしい。

- こう言うと議運でどうこうという話になるんだけども。それで、議会事務局も私は悪いと思う。公務員はもともと面倒くさいことはしたがらない。したがってそういうことは切り捨てだということを持って行かれるのが、しばしばなんだと私は思う。

○阿部 善一委員

- これ、議会事務局は一切関係ないんだ。議会の行動だから。あくまでも議会事務局というのは、議会運営の補助ということで事務方なので、事務局があれやる、これやるということは一切ない。そこだけは御理解いただきたいと思う。

○市民C

- 議会事務局のほうで悪い知恵つけてるんじゃないかと、私はときどき思って、事務局が悪いんじゃないかと思っている。今そういう訂正があったから、それはそれで聞いておく。
- だけど市民の前に何回か出てください、このプランを決めるスケジュールが終わるまでの間に。少なくとも2回くらいは公募して。市民を相手に突っ込んだ討論をしないと、議員さんたちの部屋の中だけの話ではおさまらないよ、これ。私はそういうことを言いたいわけだ。どうか。

○副委員長（紺谷 克孝）

- 改革プランを議論し始めている中で、今回はやっぱり4時間くらいかけてやったからいろんな意見がたくさん出ている。そういう議論の中では、特に市民の負担にかかる問題についてはもっと慎重に議論すべきではないかと。
昨年の交通料金の問題があつて、先に改革ありきで踏み切ったことに対して、議会としてもそういう市民に直接負担しなきやだめな事項については、期間をとてきちんと市民と議論する必要があるということも言つたし、私どもも市民と一緒にになって理事者に対してこういうふうにしようと言つた経緯もたくさん今までに事例がある。

そういう点で、今の改革プランについてももう少し慎重に、市民生活にかかる問題については理事者も声を聞いてやるべきだというふうな議論経過としてなつてている。この間の議論の中では。

○市民C

- 立派な意見があるのはわかっている。それを市民の前に公表する、そのところが足りないと思う。みんな立派な方ばっかりで意見を十分反映してるんだろう。それはわかるんだけど、それを市民に知らせることをやってないじゃないか。

○茂木 修委員

- 受益者負担については慎重にあるべきだという姿勢でこれまで議論してきた。
市民の意見を聞く、確かにおつしやるとおりだ。一つは計画をつくっているのはあくまでも市だ。計画をつくっている市が市民の意見をまず聞かなきやいけないと条例で定められている。それがパブリックコメントだ。だからできるだけ市民の方もパブリックコメントを寄せていただきたいと、私たちからしてもそう思っている。私なんかは自分の周りの市民の方にさまざまな問題のときには御意見を伺つて、私はこう考えているんだが、どうだろうかって、こういう議会全体しての報告会ではないんだけれども、議員それぞれが報告会というか、意見交換会はそのレベルできちんとやつてある。

だから議会の中だけですべてが決まっているってことはない。それは誤解なさらないようにお願いしたいと思う。

○市民C

- ・ そうか。函館市自治基本条例によると、行政と議会を含んだものを市というわけだろう。それはやっぱりまちづくりに関しては市民を交えて、それが協働という言葉であらわされている。だから私たちちはちっとも協働していないということだ。各会派でみんなそれぞれ集めて意見聞くのもいい。だけどもっと広く広報できないものなのか、いつもそう思う。

先ほど委員長から、私たちは執行機関ではないからという話があった。確かに執行機関ではないんだけど、その執行機関ではないという地方自治法の枠の中にとらわれているだけでは議員さんの仕事が見えてこないんだ。だから私が言いたいのは、法律を破れとは言わないけれども、その枠の中から飛び出して仕事をしてほしいなということが希望なんだ。

○委員長（工藤 恵美）

- ・ おっしゃるとおりだ。

○出村 勝彦委員

- ・ 根本的なことを申し上げると、地方自治は議会と執行機関との二元代表制である。その中で執行機関は1名、あとは副市長以下補助職員である。議会は函館の場合は30人で、それぞれ皆さんの御意見を会派ごとに集約して決めていく。この中には、共産党さんは3人だが、私はこうやっている、十二分にそのことを反映してもらいたいという御意見、民主党さんも8人の会派で、うちも11人、公明さんは4人、それから市民クラブが4人、それらの集合体なんだ。

絶対的な議会に課せられた使命というのは審議と議決の場で、うちのほうでも条例提案だとか何かはできるけども、執行機関でつくったものを十分時間をかけて、審査していく。その中で残念ながら予算が絡むものだから、予算にそぐわないか、そぐうかという問題も出てくるわけだ。

公共交通機関についても長野の話、それから宇都宮の話も出た。個々の家から病院、あるいはスーパーだって行けるそういう利便性。これもお金と関連ってきて、1億円以上でもかけてもいいという長野さんみたいな意見もあるし、函館市は切り詰めて、切り詰めてやっていくんだからそういう予算もどうなのかと、多角的に検討していくということで、そういうこともるる皆さん考えながら行動していることをひとつ御理解いただきたいと、かように申し上げておきたいと思う。

○市民C

- ・ わかった。皆さん一生懸命やってるのは、わかる気がする。だけどそれをもう少し、世間に広めてもらいたいと思う。

○金澤 浩幸委員

- ・ その第一歩がきょう、この初めての議会報告会でもある。

○委員長（工藤 恵美）

- ・ 若い方もいらっしゃるので。よく御存じの方々ばかりだけれども、市議会は理事者から出された、例えば先ほどの地域防災計画っていうのもこんなに分厚いものである。行財政改革プランというのも非常に量の多いものなんだけれども、それを一つ一つチェックしていくのが議会の役割だと思ってい

る。そのチェックするっていうことの責任は自分たちの個々の意見だけではなくて、みんな選挙を受けて、日頃の活動の中で多くの方々と接したり、それから団体と会ったりして、その意見を集約したものを自分の意見として、市長なり行政サイドに話をしていくわけである。それでその分厚い計画自体も一つずつ見直ししながら、よりよいものにしていこうという仕事をするわけである。

ただ、それが一人一人すべての方々の満足いくようなものになるかならないかっていうのは、それはちょっとわからないけれども、少しでも函館の歴史性とよりよいものにしていきたいという気持ちは誰もが同じだと思う。会派によって、個々によって、意見の違いは出てくるけれども、でも目的は一つだと思っている。

あくまでも、私たちはチェック機関だ。だから行政がつくるものに、先にみんなの意見を聞いてということではなくて、それは普段の活動の中で行われていると思っている。

何と答えていいかわからないけれども、1回目のこういう報告会っていう形をとらせていただいた。若い方、これからいろいろなまちづくりに貢献してくださる方々、それからいろんな積み重ねでいろんなことを御存じの方々も含めて、きょうは御意見いただき本当によかったですと思っている。まだまだ私たちも言い足りないことがあるのかなと思っている。貴重な御意見いただき、どれも市政の函館のまちづくりに貢献していけるものだと思う。資料の要求もあったが、総務常任委員会は本当に多岐わたって、関係する事項の部局も非常に多い。

きょうは教育の質問が出なかったけれども、教育に関してアリーナもそうだけれども、このアリーナの形だけではなくて、例えばこの大きなアリーナを持ってどういうことを行おうとするのかとか、どんなスポーツを誘致活動できるのだろうかとか、そういう意見も委員会の中では全員が時間をかけて、市民のためになることなんだろうかと。高いお金を出してつくるアリーナだから、これが市民のためにならなくて、負の遺産にならないためには、どうしていったらいいのかということをたくさん意見で議論するわけである。そういうことぜひ聞いていただきたいと思っている。